

星のたより

2026(令和8)年
1月号
Vol. 376

第31回雪まつりをおこないます

～雪でおもいっきり
遊びましょう！～

みなさん、あけましておめでとうございます！ 毎年恒例の「雪まつり」ではみなさんに雪で楽しんでいただけるように、いろいろなメニューを用意しています。寒さに負けず、さじアストロパークで冬のひと時を遊びましょう。

日時：2026年2月8日(日)10:00～16:00

主なメニュー：

雪像づくり、雪遊び体験、工作体験、アイスクリーム作り、プラネタリウム、お食事コーナー、などなど

鳥取市内での観察会をおこなっています

～鳥取市役所と
こども科学館で開催～

「届けるサービス」の一環で、鳥取市内に望遠鏡を持参し観察会をおこなっています。

1月は2回おこないますので、ぜひご参加ください。

1) 第12回出前観察会「木星を見よう」

太陽系最大の惑星「木星」が見ごろを迎えています。

木星の縞模様や衛星を、望遠鏡を使って観察します。

日時：2026年1月30日(金)18:00～19:00

場所：鳥取市役所7階・展望ロビー

定員：35人(事前にさじアストロパークへご予約ください)



さじアストロパークの
ホームページはこちら

2) 宇宙ふしぎ探検「冬の星座を観察しよう」

冬の星座の見つけ方をマスターして、実際の星空で探してみましょう。

日時：2026年1月31日(土)18:30～19:30

場所：鳥取市こども科学館

定員：30人(事前に鳥取市こども科学館へご予約ください)



イベント★耳より情報

☆内容や日程が変更となる場合があります。
公式ホームページで最新情報をご確認ください

☆期間展示☆第12回アストロ宇宙写真展 2026年3月15日(日)まで

さじアストロパーク職員が撮影した星や宇宙に関連した写真を解説付きで展示

☆プラネタリウム☆ 第1部 専門職員によるライブトーク

第2部 テーマ番組「宇宙への旅」 2026年2月15日(日)まで

☆第32回星景写真コンテスト作品募集☆ 2026年1月9日(金)必着

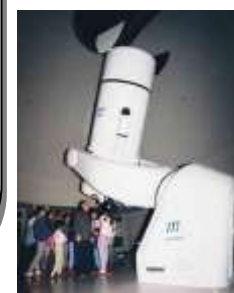
☆夜間観望会☆ ☆1月のテーマとおすすめ情報

望遠鏡で撮影体験	10(土)、11(日)、17(土)、 24(土)、31(土)
オリオン大星雲	10(土)、11(日)、17(土)、 24(土)、31(土)
観望会で月がよく見える	24(土)、25(日)、28(水)～31(土)
観望会で満天の星が楽しめる	7(水)～12(月・祝)、15(水)～18(日)、21(水)、22(木)



オリオン大星雲

☆年末・年始と1月の休館日 12月29日(月)～1月3日(土)、5(月)、6(火)、13(火)、
19(月)、20(火)、26(月)、27(火) 注：12月28日(日)と1月4日(日)は17:15で閉館



※イベントの詳細やその他の情報はさじアストロパークのホームページなどを参考にしてください。

1. プラネタリウム ☆平日は3回、土日祝は4回投影しています
前半は専門職員による当日夜の星空生解説、後半はテーマ番組投影の2部構成です。テーマ番組は定期的に変更しています。

★前半の当日夜の星空解説

星座の探し方を中心に当日夜の星空を専門職員が語り紹介します。

★後半のテーマ番組

冬のテーマ番組【宇宙への旅】

※果てしなく広がる宇宙の彼方へご案内します。

投影期間 12月17日(水)～2026年2月15日(日)



2. 103cm大型望遠鏡での夜間観望会（天体観察会）

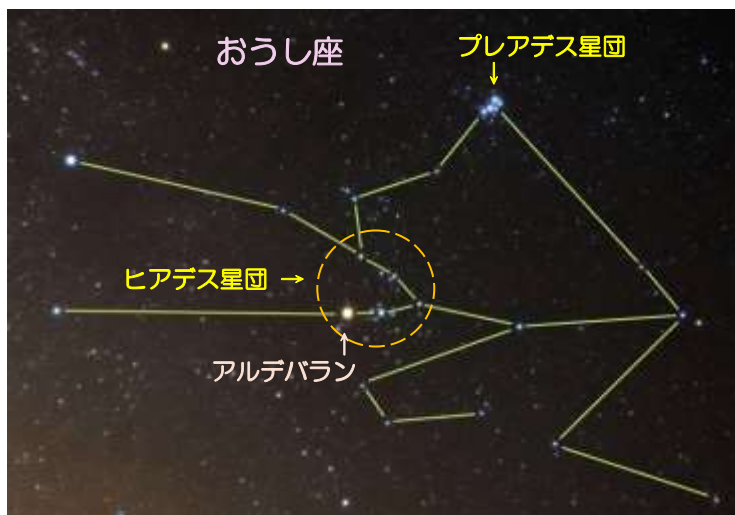
月明かりの有無や空の状態により、当日の見ごろの天体が異なります。土曜日の事前予約は不要です。その他の曜日については、個人の方はご利用日の前の開館日・午後5時まで、団体の方は曜日にかかわらず1カ月前までにご予約ください。



1月の星座と観察天体より

☆ おうし座

おうし座が誕生したのは古代バビロニア時代と考えられています。4～5千年前は、おうし座に春分点があって重要な星座でした。牛を重視していた文化があったことや、星の配列も角のある牛の姿に見えたことなどから、ここにおうし座が誕生していったのでしょう。ギリシャ神話で、このおうしは大神ゼウスがフェニキュア王の娘エウロパをさらうために変身した白く美しいおうしと



されています。おうし座は肉眼でも十分に楽しめる星座です。おうしの目玉で輝くアルデバラン、その近くの星の集まり「ヒアデス星団」、肩にある星の集団「プレアデス星団」など。ヒアデス星団は地球に一番近い散開星団のため、大きく星が散らばっています。

プレアデス星団 (M45) 距離 410 光年、ヒアデス星団 距離 160 光年

☆ オリオン大星雲 (M42)

オリオン座の三ツ星の少し南に縦に星が並んでいるような場所が「小三ツ星」と呼ばれるところですが、この中央付近にあるのがオリオン大星雲です。肉眼でもぼんやりとした姿で見えるこの星雲は、星の材料の水素ガスなどがたくさん集まっている場所で、このガスの中心部は誕生して間もない若い星々が存在しています。望遠鏡ではガスの広がりがあるで鳥が羽を広げているような姿に見えます。 距離：1400 光年



見ごろの天体紹介

今回は、今の季節に見ることのできる明るい星や惑星、星団などを3つ紹介します。実際の星空でぜひ探してみてください。

木星

今、「木星」は「ふたご座」にいます。明るさは－2等台と、月明



かりのない夜に一番明るく輝いています。木星は太陽系の中でいちばん大きな惑星で、地球の約11倍あります。特徴は縞模様です。木星には大きな赤



い丸があります。「だいせきはん大赤斑」と呼ばれていて、ここでは激しい嵐が起こっています。写真では小さく見えますが、地球がすっぽり入ってしまうほどの大きさです。また、木星にはガリレオ衛星と呼ばれる4つの衛星があります。見る日にちや時間によって、見える数や位置が変わります。木星を望遠鏡で見るときには、この衛星にも注目して見てみてください。

ベテルギウス



オリオン座の脇にある一等星で、赤い色をしています。せきしよくちようきよせい赤色超巨星と呼ばれる巨大な星で、太陽の約750倍の大きさがあります。非常に年をとった星で、いつ爆発してもおかしくない、といわれていました。何年か前にベテルギウスが急に暗くなりました。もしかしたら爆発するのでは、と思われましたが、明るさは元に戻りました。最新の研究では、爆発はここ10万年のいつか、ともいわれています。

プレアデス星団(すばる)



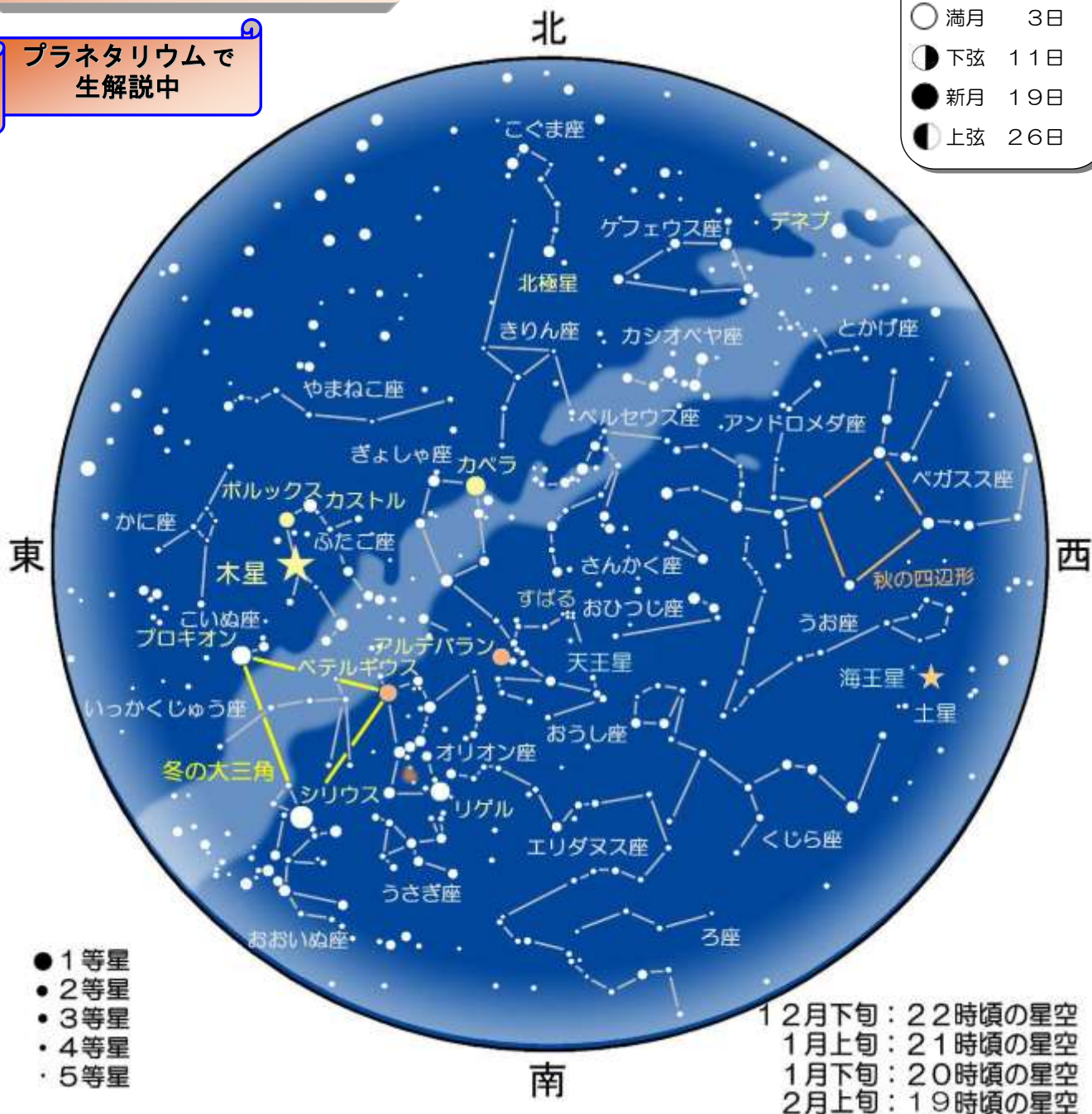
おうし座の肩の部分に、ごちゃっとした星の集まりとして見えます。視力の良い人なら、星をいくつ確認できるかチャレンジしてみましょう。実際には100個以上の若い（青白い）星があつまる星団です。日本では平安時代の頃、すでに「すばる」という名前がありました。せいしょうなごん清少納言の書いた随筆『すいひつ枕草子』を学校で習ったことで、この名前を初めて知った人も多いかもしれません。

2026年1月の星空

プラネタリウムで
生解説中

1月の月の暦

○ 満月	3日
◐ 下弦	11日
● 新月	19日
◑ 上弦	26日



☆新年を迎えてまたあたらしい気持ちで星空を見上げてみましょう。この時期の夜は凍結しやすいので足元にご注意ください。

☆「木星」が見頃を迎えています。東の空にひときわ明るく輝いていますよ。「土星」は西の空低くなりそろそろ見納めですね。冬の星たちが主役の時期になりました。はじめに三つの星が並んで見つけやすい「オリオン座」を探してみましょう。オリオンの左上に見える赤い星が「ベテルギウス」です。南東の空の「シリウス」と「プロキオン」をつないでいくと「冬の三大星」ができあがり。さらに「シリウス」から「リゲル」「アルデバラン」「カペラ」「ポルックス」「プロキオン」とたどってシリウスにもどると、大きな六角形「冬のダイヤモンド」が見えてきますよ。



さじアストロパーク

検索

プラネタリウムや観察会の時間、休館日、宿泊の予約など詳しい情報についてはホームページ&Facebookでチェック。Youtube、インスタも開設。

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1

TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103

e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp